

プロジェクト報告 Project Reports

ハイチ共和国 『ハイチ地震被災者支援』 仮設学校建設事業

サポート: ジャパンプラットフォーム
2010年12月～2011年2月

2010年1月12日ハイチでマグネチュード7.0の地震で20万人以上が亡くなった。地震から1年以上経った今も現地では、復興活動が継続している。

ICAは、初動調査、物資支援に続き仮設学校建設事業を実施している。2011年2月現在、プチゴアープ地域のコミュニティー学校であるヘンリー小学校



ICAの被災者参加型 復興支援ワークショップの様子



を建設しており、160人の小学生が学校に通えるよう6つの教室、職員室、給食調理場、トイレを建設している。また、児童への学習キットの配布を160人分行った。

教室のサイズ、レイアウトは、現地の被災者や学校関係者とアイデアを出しながら、専門家と技術的な可能性を慎重に検討しながら調整している。現地では、大統領選挙なども重なり、時期によっては現地の資材調達が難しく、計画よりも時間がかかってしまっているため、事業期間を延長して対応している。

また、現地では衛生環境の悪化などによるコレラの蔓延が深刻な状況となり、死者が1100人以上出ている状態で

ある。その状況に伴い、ICAでは児童や父兄、事業関係者に対するコレラ対策、公衆衛生研修を実施した。ICA佐藤理事長は、現地に滞在し、被災者参加型の自立復興支援ワークショップを行った。支援に頼り切った状態で生活している被災者が自分達の手でも何か始めたいという要望からである。被災者が経験やネットワークを共有し、今後どのように復興に向けて活動するかを話合った。今後も継続して報告する予定である。



建設現場を視察する日本人専門家



完成間近の給食調理場



地元の業者が学校で使用する机を作成した



教室の壁



地元メディアが取材にきた



コレラ患者を病院に運ぶ様子



コレラに関する衛生環境講習会の様子



コレラ研修を受ける児童たち



小学校建設作業の様子



学校前に立てられたサインボード